

移住した皆さんに
インタビュー

ようこそ 小野町

昨年から実施している「笑顔とがんばり！小野町定住・二地域居住推進事業」の目玉事業である「町有林おすそわけ事業」は、移住して家を新築する方に町有林の杉をプレゼントするという事業です。今回は、この事業を初めて利用して11月に町民の仲間入りをした方に、お話を伺いました。

◆どこから移住しましたか？

静岡県から移住しました。住宅や工場が密集していて、騒音もひどかったので、静かなところで暮らしてみたいと子どものころから思っていました。

また、犯罪も多い地域だったので、安全な場所で暮らしたいという希望もありました。

◆どのように移住先を決めましたか？

犬が趣味なので、犬を連れていろいろな土地を旅するうちに、その地域の雰囲気がかめめるようになりました。古民家などを扱っている業者に、田舎暮らしを実際に行っている方に会わせてもらい、失敗談も含めていろいろな話を聞きました。

あまりにも山奥だと年をとってからの生活や水の確保が大変だと聞きました。交通アクセスの良いところ、温泉の近いところなどを条件に

地域を絞る中で、小野町も候補となりました。過去10年間の気象データを集め、実際に冬に町を訪れてみて、飲み屋で地域の人に町の様子を聞き、何度も町に足を運んで、最終的に小野町にしました。

森部文雄さん（飯豊上行政区）



木のぬくもりがあふれる家で、小野町での新しい生活を始めた森部さんは、静岡でボランティア活動にも参加していたとのこと。小野町ではのんびり暮らしつつ、地域の方との交流も楽しみにしているそうです。



自宅の周囲の自然を満喫しているそうです

◆小野町の生活はいかがですか？

少し運転すればスーパーもあり、暮らしやすいと感じています。冬の運転は慣れていないので、注意しようと思っています。生活が落ち着いてきたら、家庭菜園などもやってみたいと思っています。

◆町有林おすそわけ事業を利用したの感想は？

丸太を見たときに、年輪が深くて、良い木だと感じました。輸入材は、日本の気候に合わないという話も聞きます。その土地で育った木が、最もその土地の気候に合う建築資材になるのだと思っており、ありがたく感じています。

お忙しい中、インタビューにご協力いただき、ありがとうございました。